

平成28年度
入学生151名



平成29年度
入学生146名



宇都宮大学“地域デザイン科学部”の取り組み ～分野融合の実質化へ向けて～

平成30年度
入学生146名



目 次

1. “地域デザイン科学部”について
 - 1-1. “地域デザイン科学部”の構想
 - 1-2. 学部の教育研究
2. 教育研究の特長
 - 2-1. 分野融合型教育 (カリキュラム)
 - 2-2. 地域との連携
 - 2-3. 内部質保証システム
 - 2-4. 融合・連携の実質化 (学部内組織)
3. まとめ ～学部長の立場から～

教学マネジメントのキーワード

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1) 育成する人材像とカリキュラム | 2) 社会的存在として (地域との連携) |
| 3) 持続的改善の仕組み (内部質保証) | 4) 運営 (学部内組織) |

1. “地域デザイン科学部”について

1-1. “地域デザイン科学部”の構想

1-2. 学部の教育研究

1-1. “地域デザイン科学部”の構想

重点戦略1

地域の“知”の拠点形成



全国に先駆けて設置した文理融合型の「地域デザイン科学部」を起点として、まちづくりを支える専門職業人を育成するとともに地域との共創機能を強化。さらに、新しい文理融合型の大学院組織を立ち上げ、地域の“知”の拠点を形成する。

取組A：“地域デザイン科学部”を平成28年度に設置

理念

地域の持続的な発展に関する教育・研究・地域貢献を推進することによって、豊かな生活の実現に貢献する。

育成する人材像

魅力ある地域をつくるため、地域の課題を理解し、各地域の資源と特性を活かした“まちづくり”を支える人材を育成。

1 - 2. 学部の教育研究

- 国際、教育、工、農に加わった第五の学部
 - 入学定員3学科**140名**
 - **社会科学の領域**を中心とした文系分野、**自然科学・工学領域**の理系分野教員**43名**が所属し、文理融合の教育研究を展開
 - 地域志向の強い専門分野
 - 分野融合研究にも積極的

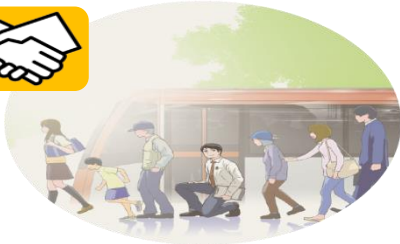
地域デザイン科学部教員分野

単位:人

学科等名	教育学 心理学	経済学 経営学	政治学	社会学 福祉学	文化学 観光学	環境 科学	食物学	建築学	土木 工学	計
コミュニティデザイン学科	2	3	2	3	2	1	1			14
建築都市デザイン学科								13		13
社会基盤デザイン学科									14	14
地域デザインセンター				1(1)	(1)			1(2)	(2)	2(6)
計	2	3	2	4(1)	2(1)	1	1	14(2)	14(2)	43(6)

※教員数 : 平成30年7月1日現在数で()書きは兼任教員数で外数

【文理に広がる3つの学科】



コミュニティデザイン学科

(定員50名)

「社会システムを支え、
魅力ある地域をデザイン」

- 地方自治や観光、福祉などの観点から**地域社会**について学ぶ
- 学内のこれまでの教育を引き継ぎ発展させた、**あたたなまちづくり**を考える学科

【想定される就職先】公務員（行政職）、金融、旅行業、NOPなど



建築都市デザイン学科

(定員50名)

「人にやさしい居住環境や
都市をデザイン」

- 建築を核として**人に優しい居住環境や都市**について学ぶ
- 建設学科**建築学**コースの教育研究を維持しながら、新たな分野（**安全、再生**）を加えた学科

【想定される就職先】建設業、公益企業、建築設計事務所、シンクタンク、公務員、建材メーカーなど



社会基盤デザイン学科

(定員40名)

「安全で持続可能な社会基盤
・都市機能をデザイン」

- 最先端の建設技術をもとに**安全で持続可能な社会基盤整備**について学ぶ
- 建設学科**建設工学**コースの教育研究を維持しながら、新たな分野（**防災、マネジメント**）を加えた学科

【想定される就職先】公務員（技術職）、公益企業（鉄道・電力等） ディベロッパー、ゼネコン、コンサルタントなど

2. 教育研究の特長

2-1. 分野融合型教育 (カリキュラム)

2-2. 地域との連携

2-3. 内部質保証システム

2-4. 融合・連携の実質化 (学部内組織)

2-1. 分野融合型教育（カリキュラム）

- ・ アクティブ・ラーニング を実践した教育
- ・ 地域と連携 した教育

学部共通教育

“地域対応力”の養成

- 分野を融合して 学ぶ仕組み
- 3学科混成 の小グループ
- 学生・教員、全学科融合して地域デザインに関わる基本と応用を 総合的に学習

実践的学科専門教育

“専門分野”の確立

コミュニティデザイン学科
建築都市デザイン学科
社会基盤デザイン学科

- 専門科目 アクティブ・ラーニング 化100%

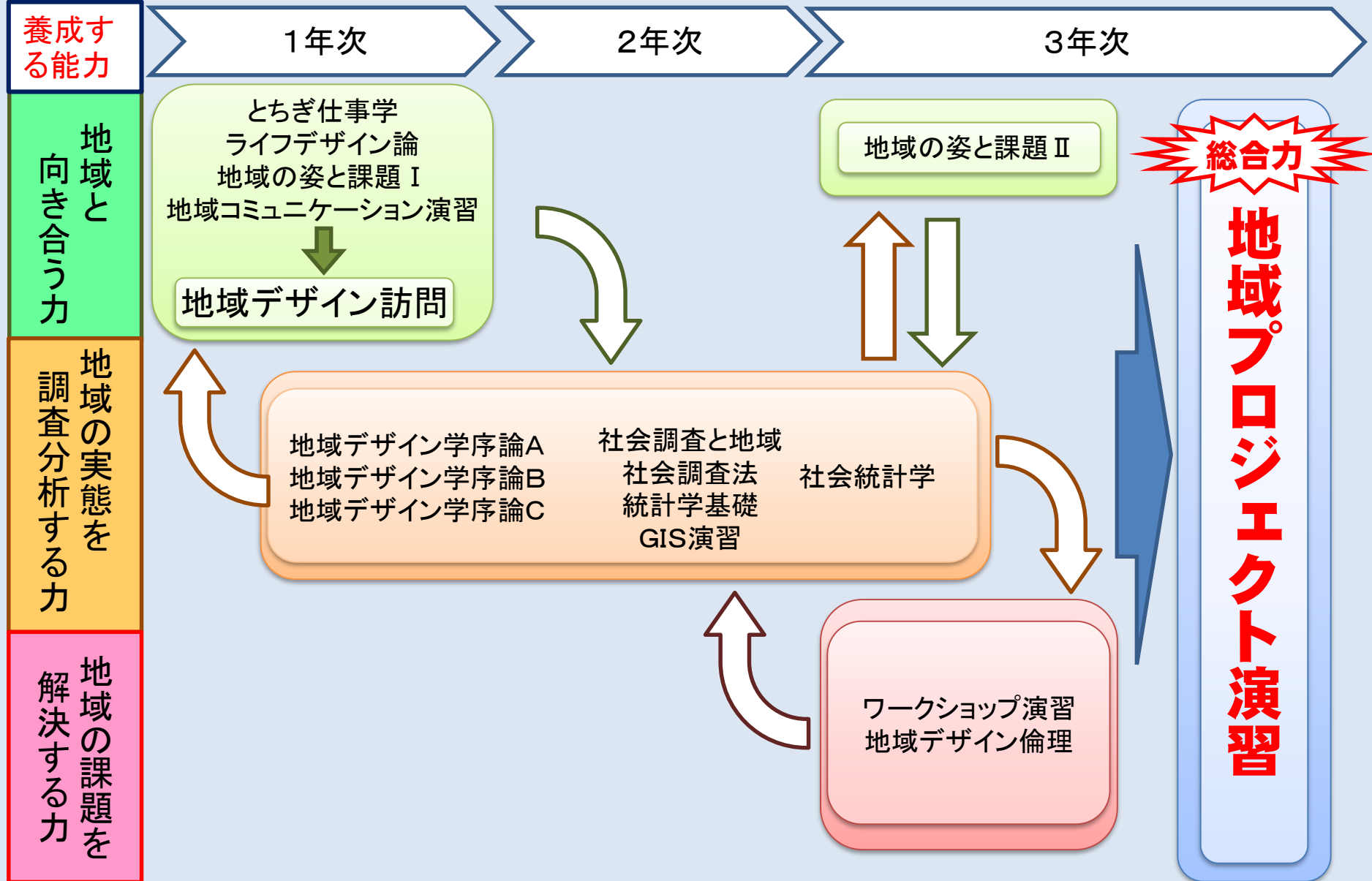
- 学科専門を超えた学修
- 他学科科目 の履修

「地域プロジェクト演習」 ・ 「卒業研究」

地域で活躍できる 活きた総合力 と 専門性 を養い
地域デザインの新たな力が芽生える。

総合力

“地域対応力”を養成する学部共通授業



1年次・2年次「学部共通科目」

【1年次科目】

地域コミュニケーション演習

- 多様な地域・専門分野の人々と連携に必要な様々なスタイルのコミュニケーションスキルを学ぶ
- 学科混成のグループに分かれて、毎回異なる内容のグループワークを行う

グループワーク風景



地域の姿と課題Ⅰ

- 地域の現状や課題について幅広い視点から理解する力を養うための導入授業
- 実務者を外部講師で招くオムニバス講座
- 地域社会の多様なステークホルダーと直接、グループ単位で意見交換する機会

「町長の仕事とは何か」 入野正明氏（栃木県市貝町長）



地域デザイン訪問

- デザイン能力育成の第一歩
- 各学科ごと現場を見学し工学的技術や社会的取組みについて、実務者の方々に直接触れる
- 3学科混成グループで、それぞれの見学箇所についてディスカッションし、ポスター発表

現場見学



グループディスカッション ポスター作成



ポスター発表



【2年次科目】

GIS演習

- 地域分析力の養成：地理情報システム（GIS）やリモートセンシングについて基礎を学修する
- コンピュータを用いた演習により、地域の調査や研究に活用できるGISの初歩的技能を修得する



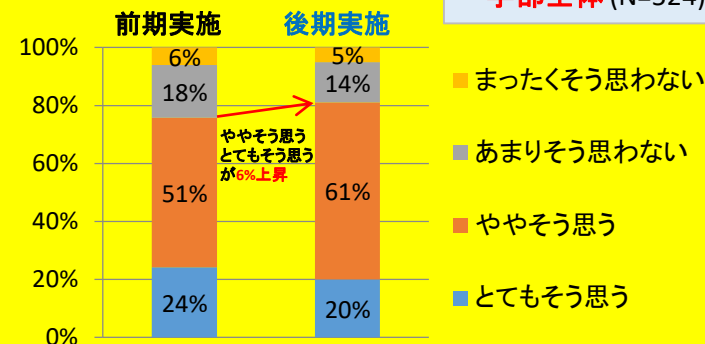
社会調査法

- 地域の調査手法を実践的に修得する

アンケートの実施（平成30年度へ課題の検討・改善）

Q.学部の授業を通じて地域への興味や関心が高まりましたか？

学部全体 (N=524)



学部共通科目

：「地域プロジェクト演習」 (3年次)

地域対応力育成の総仕上げ (3年次学生が、地域の実際の問題に挑む)

- ・ **3 学科混成グループ**で、栃木県内の地域に出かけ、フィールドワーク
- ・ **3分野の総力**を結集して、調査・分析、**解決策を提案**するまで
- ・ 最終的に、**プレゼンテーション**と全体討論を行う

(優良事例は**公開発表**へ)

「地域プロジェクト演習」の準備
本格化についての新聞掲載

新設学部のまちづくり「演習」

2016年4月に新設された宇都宮大学
地域デザイン科学部の自主授業「地
域プロジェクト演習」の準備が本格
化し、無事に10月1日より実施して
いる。今年度、卒業設計の先生チ
ームが1年間にわたり地域に入り込
み、課題の発掘から解決まで取り組
む。

宇
都
宮
大

この中で、文理融合でまちづくりの
狙いを実現を目指す同学部は「地域
対応力養成の最大」と位置付ける。
受け入れが決定される県内市町村は
複数もあるが、先行の栃木県足利
市など後及効果に期待も込められ
ている。(古田 浩)

18年4月 開始予定 市町と具体的調整へ

宇都宮大学 地域デザイン科学部
地域プロジェクト演習の準備が本格
化し、無事に10月1日より実施して
いる。今年度、卒業設計の先生チ
ームが1年間にわたり地域に入り込
み、課題の発掘から解決まで取り組
む。

地域に入り課題解決

骨格固まり準備本格化

平成28年1月30日 下野新聞

「地域プロジェクト演習」について
【自治体版】【よくあるご質問集】他

宇都宮大学 地域デザイン科学部
「地域プロジェクト演習」について
【自治体版】



～地域をつなぐ 未来に

(平成 28 年 12 月発行)

宇都宮大学 地域デザイン科学部 共通専門科目
「地域プロジェクト演習」について
【よくあるご質問集】



～地域をつなぐ 未来につなげる～

(平成 28 年 12 月発行)

地域プロジェクト演習に向けた
自治体への説明会・意見交換



・ 学生の活動とその特徴

○ “3学科混成”グループが“地域”で学ぶ

地域で学ぶ,
合意形成



プロジェクト・パートナー
(自治体, NPO, 企業など)

課題の整理
解決策の提案



異なる感性・
思考の享受



コミュニティ



建築都市



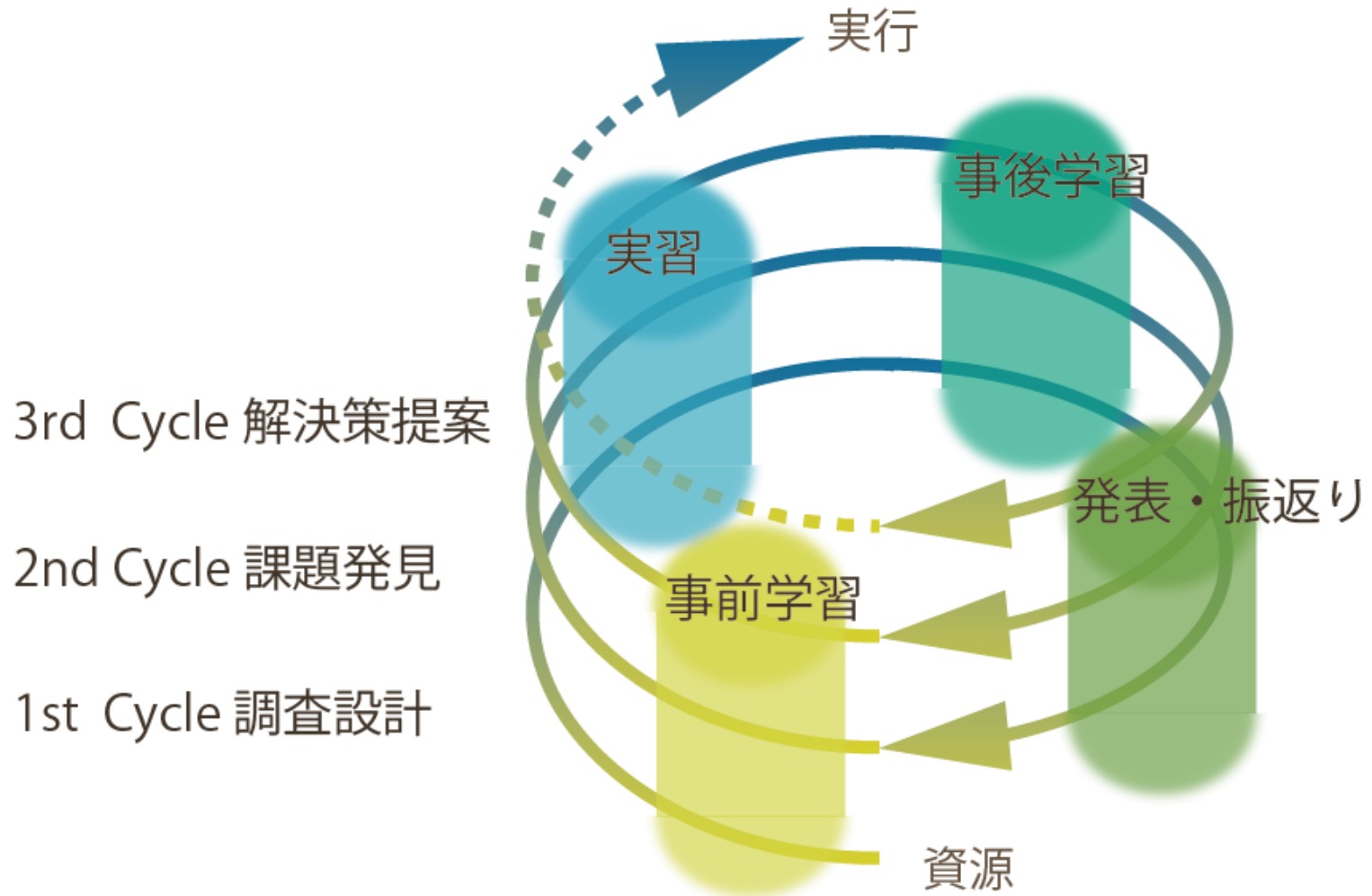
社会基盤

1グループ 5・6人

“3学科混成”



・学修の流れ



・授業の到達目標（学修成果）

「地域プロジェクト演習」を修得することで、

1. 多様な人々とのコミュニケーション
2. 適切な調査や分析
3. 具体的な解決策の策定とプレゼンテーション
4. チームの一員としてかつ主体的な行動

が出来るようになる

⇒ 地域課題の課題解決力（**地域対応力**）を獲得する

・演習の運営体制

大 学

地 域

クラス指導教員
(クラス統括)

グループ指導教員
(各学科教員)

学 生

パートナー

コミュ P

コミュ AP

1グループに教員1名

約10グループ

約10パートナー

クラス1

建築 P

建築 AP

1グループに教員1名

約10グループ

約10パートナー

クラス2

杜基 P

杜基 AP

1グループに教員1名

約10グループ

約10パートナー

クラス3

学生の地域活動

調整担当(県市町)
地域でのコーディネート

支援

指導

連携

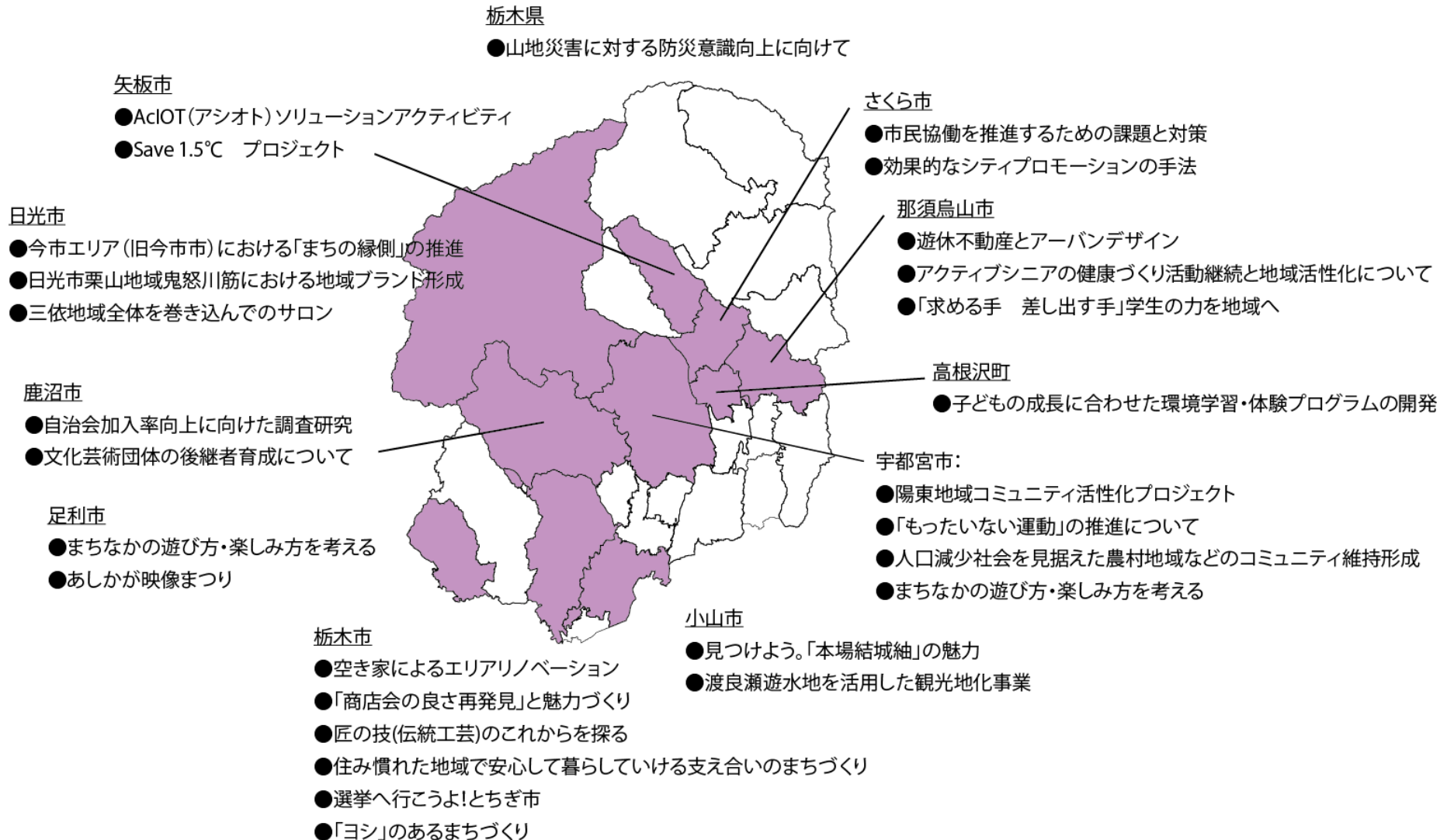
連携

地域デザインセンター：プログラムの運営・全体コーディネート

- 地域PJ演習サポート会議(実施支援チーム) 構成員:センター教員6名、コーディネーター、特任助教、TA6名
- 地域PJ演習委員会(成績評価) 構成員:センター長、サポート会議教員6名

・“プロジェクトパートナー”と地域課題

H30年度は下記11自治体28グループで実施 (H31年度は新規に3市町追加)



・本年度の様子

- 平成30年度は、県内11の県市町に調整担当配置、全28地域プロジェクト・パートナーと連携
- ・第1回 ガイダンス ・第2回 顔合せ会実施 学生、地域（調整担当・パートナー）、教員（クラス指導教員・グループ指導教員）総勢260名が集まり課題共有
 - ・「事前学習、実習、事後学習、発表・振り返り」を1 Cycleとし年3 Cycle実施

第1回 ガイダンス



第2回 顔合せ会



複数メディアからの取材

宇大地域プロジェクト演習

地域プロジェクト演習のスタートに合わせ、学生自治体などの担当者らが初めて顔を合わせた17日午後、宇都宮駅東キヤンパス

宇都宮大地域サイエンス部の「地域プロジェクト演習」が本年度から始めるのに合わせ、学生や教職員、自治体関係者の全体会議が17日、同太陽東キヤンパスで開かれた。学生たちは5月から約1年間、地域での現地調査などを通じて課題解決に取り組む。

同演習は同学部3年生が対象で、コミュニケーション能力や調査・分析能力などを養成するが目的。学生代表理事生150人から5・6人1組のチームを組み、自治体やNPO法人などが「地域プロジェクト・パートナー」として協力する。

宇都宮大地域サイエンス部の「地域プロジェクト演習」が本年度から始めるのに合わせ、学生や教職員、自治体関係者の全体会議が17日、同太陽東キヤンパスで開かれた。学生たちは5月から約1年間、地域での現地調査などを通じて課題解決に取り組む。

同演習は同学部3年生が対象で、コミュニケーション能力や調査・分析能力などを養成するが目的。学生代表理事生150人から5・6人1組のチームを組み、自治体やNPO法人などが「地域プロジェクト・パートナー」として協力する。

学生は今後、地域活性化や伝統産業の振興をテーマに沿った課題の発見や解決策の提案を目指す。

本年度 光市など法人が学生の日は地域の特色やパンフレットを説明。学

始動に合わせて全体会議

学生の活動の様子



昨日、地域の方から「学生の皆さんに渡して欲しい」と写真を預かり、写真について尋ねてみたところ、学生が地域プロジェクト・パートナーと話をしていたところに、ご近所の方々が混ざってきた時のものだとか。...学生たちの生き生きとした表情に、現地での充実した時間が垣間見れた。



2-1. 分野融合型教育（これまでの実績）

- 学生の地域への興味・関心の高まり
 - ・学生の受講数、アンケート
- 地域からの関心の高まり、地域の視点を強化
 - ・合同発表会、ポスター発表会への自治体実務関係者の参加
 - ・万全な形で「地域プロジェクト演習」を展開
(地域と学部が連携して実施)

- 専門科目 アクティブ・ラーニング100%
 - ・新校舎アクティブラーニング教室等を活用した授業改善
- 教員の指導法等についての理解
 - ・学部内で学習会を9回開催（地域プロジェクト演習について、内部質保証システムについて等）
 - ・本学部教員がベストレクチャー賞受賞

池田教授
学長から受賞の様子



「反転授業によるアクティブラーニング手法の開発」
(本学初の推薦による受賞)

2-2. 地域連携の推進

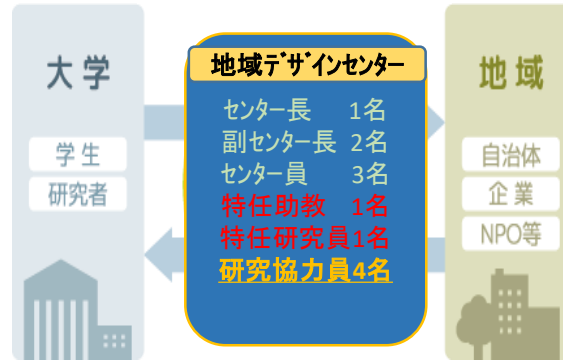
“地域の知の拠点”として地域と大学の一層の連携を推進

○ 地域デザインセンターをハブとして、

- ・学部教員、
- ・センター教員、
- ・地域の連携者

が協働し、
3つの柱を掲げ活動

テーマ；地域をつなぐ
未来につなげる



地域住民や行政職員
とのワークショップ風景

🎓 教育研究活動支援

地域プロジェクト演習実施
に向けた学内外との調整

- 学部FDとしての説明会
- 手引き書等の作成
- プロジェクトパートナー決定及び説明会・意見交換会
- 学生への説明会
- プロジェクトパートナーと学生グループ、指導教員のマッチング
- 「地域プロジェクト演習」の運営・コーディネート

🔍 伴走支援

地域との共同研究
コーディネート業務

- 地域との共同研究(平成29年度4件)**
- 小さな拠点づくり推進事業(さくら市)
 - 空き屋等活用によるコミュニティ形成・空間活動用事業(宇都宮市)
 - 中心市街地における賑わい効果等の測定に係る調査研究(宇都宮市)
 - オープンデータ利活用推進事業(栃木県)
- コーディネート(平成29年度2件)**
- 社会福祉法人「絆の会」が実施する「冒険あそび場」事業を対象とした地域連携プロジェクト
 - 野木町と大規模開発宅地における地域課題をテーマにした共同研究

🏠 実践活動支援

学内地域連携活動の支援
(平成29年度15件)

- 【通期プロジェクト】**
- 世界遺産登録を目指す足尾地域のまちづくり～歴史と遺産を活かした地域再生の取り組み～
 - 宇都宮インナーサーブにおける空家活用手法と経営モデルの開発
 - 高大連携を通じた高等学校における地域課題解決学習の調査研究
 - 地域子育て支援拠点事業による地域拠点創出に関する研究
 - 市貝町まちづくり参画実践プロジェクト 他5件
- 【半期プロジェクト】**
- 災害教訓を踏まえた地域防災まちづくりに関する研究
 - 日光東町まちづくりスタートアッププロジェクト 他3件

・ 情報発信 ・ 交換

第2回地域デザインセンターシンポジウム開催

平成30年2月21日開催

高知大学地域協働学部、宮崎大学地域資源創成学部、宇都宮大学地域デザイン科学部の**学生によるパネルディスカッション**を行い、**地域創生系学部の学生が今、具体的に何を見据えて学んでいるのか**、地域での活動を通じた学びを持ち寄り、相互に**情報の発信・交換**



第1部
地域デザインセンター活動報告
～**地域プロジェクト演習**開始に向けて～
第2部
地域連携プロジェクト成果報告
第3部
学生たちによるパネルディスカッション
「TEIDAN地方創生系3大学リアル」
(3大学“学生”交流)

パネルディスカッション

活動報告

ポスターセッション



開設記念シンポジウム I・II 開催

I : 平成28年9月13日開催
【大地の学校】

II : 平成28年11月28日開催
【宇都宮大学防災シンポジウム】
～災害を他人事としないために～

第1回地域デザインセンター
シンポジウム開催

平成29年2月23日開催
【これからの地域と大学のつながりを考える】



第2部パネルディスカッション
(1) 地域連携プロジェクト
成果報告
(2) **地方創成を推進する大学の
取組事例**
○高知大学地域協働学部
○宮崎大学地域資源創成学部
(3大学教員交流)
⇒書籍の共同出版へ

・地域との連携組織図

ネットワーク会議

自治体、企業、地域諸団体等との連携強化、地域課題の解決に向けた、教育研究の推進及び改善(外部評価)を図る。

栃木県
宇都宮市

公益社団法人
栃木県
経済同友会

栃木県市長会
栃木県町村会

関連
団体等

宇都宮
大学

教育・研究プロジェクト

〇〇プロジェクト
(プロジェクトリーダー、
学部教員、研究協力員)

△△プロジェクト
(プロジェクトリーダー、
学部教員)

□□プロジェクト
(プロジェクトリーダー、
学部教員、研究協力員)

地域課題専門委員会

地域と連携し、**地域デザイン研究会**、**地域連携プロジェクト**等を実施

連携

地域デザインセンター

地域と連携した教育及び
研究を支援し、地域の課
題解決に貢献

教育連携専門委員会

地域対応力の養成に係わる**共通科目の実施**に向け地域と連携する。

連携

共通科目委員会

共通科目の企画・運営・点検・評価及び改善

地域デザイン科学部

コミュニティデザイン学科
建築都市 デザイン学科
社会基盤 デザイン学科
(FD専門委員会 自己点検・評価委員会)

- ・21世紀の地域社会を持続可能で豊かにするために、新しい地域デザインに必要な教育・研究・地域貢献に取り組む。
- ・魅力ある地域をつくるため、地域の課題を理解し、各地域の資源と特性を活かした**まちづくりを支える人材を育成**する。

2-2. 社会連携（これまでの実績）

○ 教育面での地域からの視点強化

- ・ゲストスピーカーと学生との活発な意見交換（「地域の姿と課題Ⅰ」）
- ・地域の実務者との交流（「地域プロジェクト演習」他）

○ 地域からの期待関心の高まり

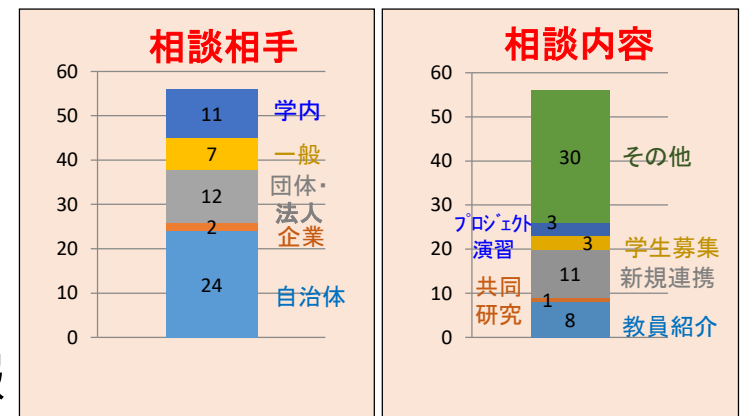
- ・地域プロジェクトパートナーの協力、自治体に調整担当を配置、地域デザイン研究会の開催など。

地域プロジェクト演習	
自治体数	プロジェクトパートナー数
11	28

○ 地域との協働・交流の推進

- ・コーディネーション・共同研究
（相談相手や内容の広がり）
- ・地域課題対応基礎資料の作成と利用
- ・研究協力員の称号付与
（4名の学外プロジェクトメンバー）

H29'相談件数56件



○ 地域創生系学部との連携

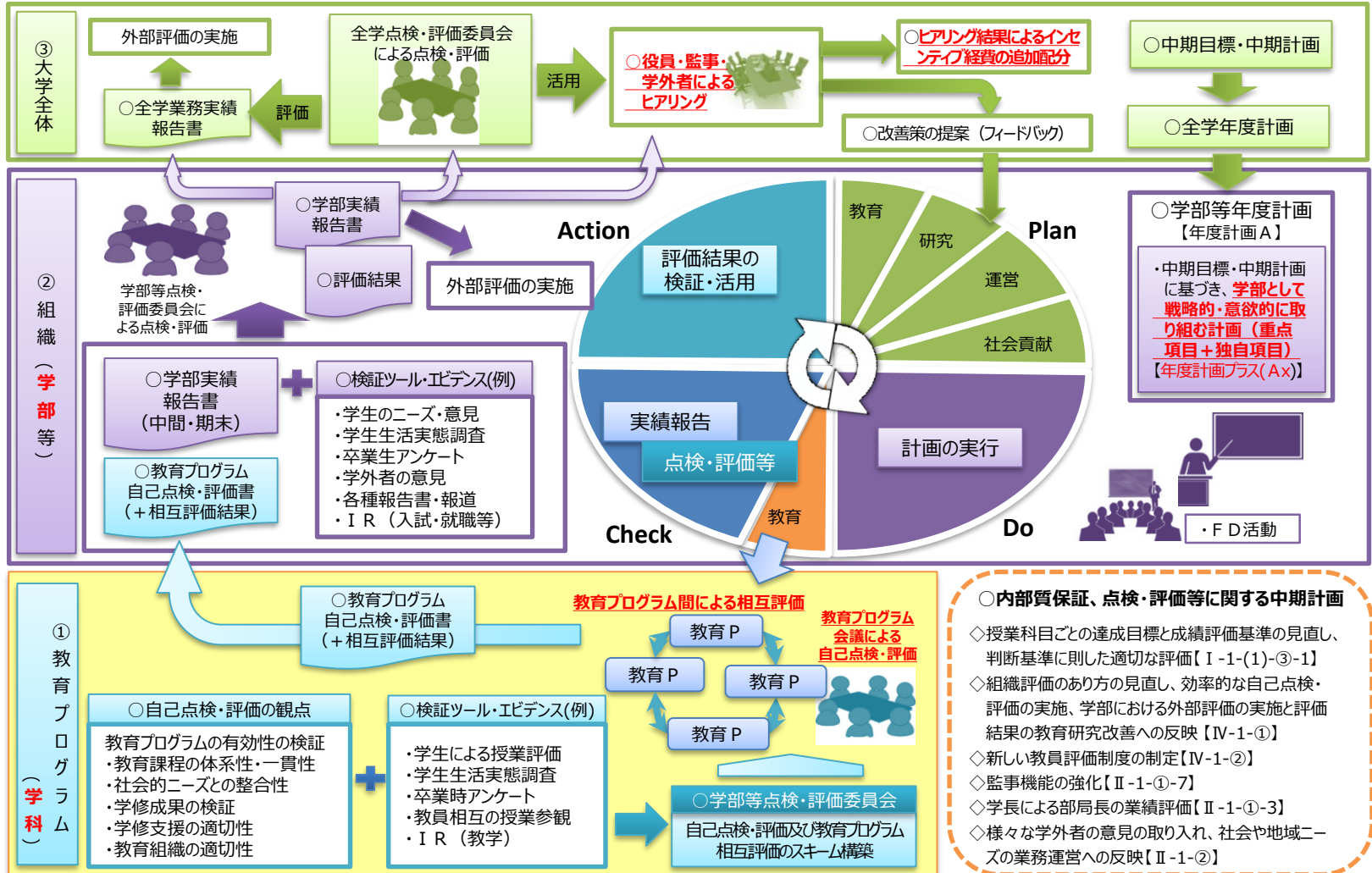
- ・地域デザインセンターシンポジウムでの、情報発信・交換

○ まちづくりに資する資料の共有

- ・教材を地域デザインセンターに集積。栃木県内の自治体職員などと共有。

2 - 3. 内部質保証システム (全学的運用)

宇都宮大学内部質保証システム体系図



- 内部質保証、点検・評価等に関する中期計画
- ◇授業科目ごとの達成目標と成績評価基準の見直し、判断基準に則した適切な評価【I-1-(1)-③-1】
 - ◇組織評価のあり方の見直し、効率的な自己点検・評価の実施、学部における外部評価の実施と評価結果の教育研究改善への反映【IV-1-①】
 - ◇新しい教員評価制度の制定【IV-1-②】
 - ◇監事機能の強化【II-1-④-7】
 - ◇学長による部局長の業績評価【II-1-①-3】
 - ◇様々な学外者の意見の取り入れ、社会や地域ニーズの業務運営への反映【II-1-②】

- 教育プログラム評価に関連する中期計画
- ◇全学的な教学マネジメントを確立するために新たに「大学教育推進機構」を設置し、教育プログラムの検証並びに学生の学修成果や教育活動の点検・評価、ニーズ調査等に基づいて恒常的に教育の質改善を図る仕組みを構築する。

2-4. 融合・連携の実質化

～教員の三学科融合を目指して～

- 教育、研究、地域連携を 3学科混成教員が協働 で実施
: 学科ごとの 階層組織 を基本に、 水平組織 を組み込む

※下記赤字が **3学科教員融合** の組織 --- 「権より始めよ」

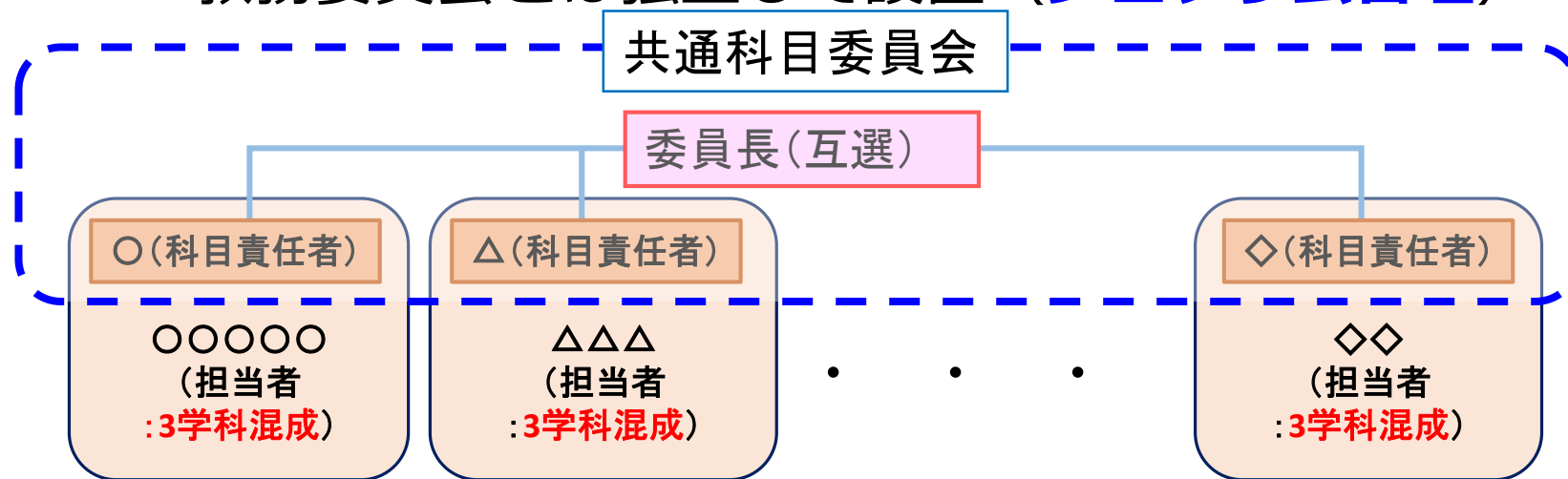
(1) 2-1. 分野融合 において

- **“学部共通科目”**

多くの科目を **3学科の教員が協働** で実施

- **“共通科目委員会”**

教務委員会とは独立して設置 (**プログラム管理**)



2-4. 融合・連携の実質化

(2) 2-2. 地域との連携 において

- **“地域デザインセンター”**

センター教員(3学科から2名 + 特任) + 研究協力員

- **“教育連携専門委員会”**

“共通科目委員会”委員 + 学外委員 (**地域の連携者**)

- **“地域課題専門委員会”**

センター教員 + 学外委員 (**地域の連携者**)

(3) 2-3. 内部質保証 において

- **“年度計画プラス (Ax) WG”**

: 「独自項目」の作成・管理 (年度計画は階層組織で作成・管理)

若手教員グループ (3学科から准教授以下2名)

- トップは、学部准教授*

* 学長補佐 = 全学的内部質保証システムと連動

3. まとめ：～学部長の立場から～

【学部・学科】

＜教育プログラムの単位＞

※ まちづくり人材（育成する人材像）のためのカリキュラム

- ・ 3学科の個性と学部融合

【全学】

＜運営体制の整備＞

※ 内部質保証システム等

＜背景＞：学長のガバナンス改革＝学部が置かれている環境の変化（学部長は学長指名、任期も学長任期と連動）

“学部内活動”と“全学システム”との
有機的結合

地域デザイン科学部では “活動をとおして融合を実質化”

- ・ 「分野ごとの個性」の尊重（専門知の重視）
- ・ 「3学科混成の、地域での」活動を実践（分野融合・地域連携）

その結果：

- 「専門性の自覚と異なる感性・思考の理解」とともに、教員が変わる。
…そして、学生の汎用的実践力養成を。そこから、地域の課題解決

宇都宮大学 地域デザイン科学部

School of Regional Design

○ “地域”と“大学”とが協働し、新たな教育プログラムを作り上げている最中です。
その創造の中で、意欲ある学生さんたちが成長しています。



○ “地域”とともに、“学生”、“教員”が成長していきたいと考えています。



地域の未来を科学の力で



ご清聴ありがとうございました。